

# WAP551およびWAP561アクセスポイントでのクライアントQuality Of Service(QoS)アソシエーションの設定

## 目的

クライアントQoSアソシエーションは、ネットワークに接続されたワイヤレスクライアントの特定のQoS側面を制御します。これらのQoSには、クライアントに許可される帯域幅の量、HTTPトラフィックなどのトラフィックの一般的なカテゴリを制御するために必要なACLタイプ、およびDiffServポリシーが含まれます。これらはすべて、ネットワーク上で認証されたときに着信と発信の両方を行う各ワイヤレスクライアントの特性を把握するのに便利なツールです。

この記事では、WAP551およびWAP561アクセスポイントでクライアントQoSアソシエーション(SA)を設定する方法について説明します。

## 該当するデバイス

- ・ WAP551
- ・ WAP561

## [Software Version]

- ・ v1.0.4.2

## クライアントQoSアソシエーション

ステップ1:Web設定ユーティリティにログインし、[Client QoS] > [Client QoS Association]を選択します。「クライアントQoS関連付け」ページが開きます。

Client QoS Association

Radio: ☒ Radio 1  
☐ Radio 2

VAP: VAP 0 (csb) ▼

Client QoS Mode: ☐ Enable

Bandwidth Limit Down: 0 Mbps (Range: 0 - 300)

Bandwidth Limit Up: 0 Mbps (Range: 0 - 300)

ACL Type Down: None ▼

ACL Name Down: ▼

ACL Type Up: None ▼

ACL Name Up: ▼

DiffServ Policy Down: ▼

DiffServ Policy Up: ▼

Save

ステップ2:[Radio]フィールドから、適用する設定のオプションボタンをクリックします。

注：WAP551には1つの無線しかいないため、手順2はWAP561アクセスポイントでのみ使用できます。

Radio: ☒ Radio 1  
☐ Radio 2

VAP: VAP 0 (csb) ▼

Client QoS Mode: ☒ Enable

Bandwidth Limit Down: 150 Mbps (Range: 0 - 300)

Bandwidth Limit Up: 190 Mbps (Range: 0 - 300)

ステップ3:[VAP]ドロップダウンリストから、クライアントQoSパラメータを設定するVAPを選択します。

ステップ4：クライアントQoSモードを有効にするには、[Client QoS Mode] チェックボックスをオンにします。

ステップ5:[Bandwidth Limit Down]フィールドに、デバイスからクライアントへの送信に使用するMbpsの数を入力します。

ステップ6:[Bandwidth Limit Up]フィールドに、クライアントからデバイスへの送信に使用するMbpsの数を入力します。

The screenshot shows a configuration interface with the following fields and their selected values:

Field	Selected Value
ACL Type Down:	IPv6
ACL Name Down:	ACL1
ACL Type Up:	IPv4
ACL Name Up:	new
DiffServ Policy Down:	Policyname1
DiffServ Policy Up:	Policyname1

注：IPv4およびIPv6ルールの作成方法については、「[WAP551およびWAP561アクセスポイントでのIPv4およびIPv6ベースのアクセスコントロールリスト\(ACL\)の設定](#)」を参照してください。

ステップ7:[ACL Type Down]ドロップダウンリストから、着信トラフィックに対して[IPv4]、[IPv6]、または[MAC]を選択します。

- ・ IPv4:IPv4パケットがACLルールと一致するかどうかを検査されます。
- ・ IPv6:IPv6パケットがACLルールと一致するかどうかを検査されます。
- ・ MAC：レイヤ2フレームがACLルールに一致するかどうかを検査されます。

ステップ8:[ACL Name Down]ドロップダウンリストから、発信トラフィックに適用するACLを選択します。

ステップ9:[ACL Type Up]ドロップダウンリストから、発信トラフィックにIPv4、IPv6、またはMACを選択します。

- ・ IPv4:IPv4パケットがACLルールと一致するかどうかを検査されます。
- ・ IPv6:IPv6パケットがACLルールと一致するかどうかを検査されます。
- ・ MAC：レイヤ2フレームがACLルールに一致するかどうかを検査されます。

ステップ10:[ACL Name Up]ドロップダウンリストから、インバウンドトラフィックに適用するACLを選択します。

ステップ11:[DiffServ Policy Down]ドロップダウンリストから、発信トラフィックに適用するポリシーマップを選択します。

ステップ12:[DiffServポリシーアップ(DiffServ Policy Up)]ドロップダウンリストから、着信トラフィックに適用するポリシーマップを選択します。

注：ポリシーの追加方法については、『[WAP551およびWAP561アクセスポイントでのポリシーマップの設定](#)』を参照してください。

ステップ13:[Save]をクリックします。